

前年度の成果と課題	教育目標	人間尊重の精神を培うことを基盤として、確かな学力の育成とともに、学ぶことの良さを知り、みんなで生活を創造するやさしさとたくましさを持った、心身ともに健全な子どもを育てる。	総合評価		
○「主体的な学びを育む授業展開」についての研修を重ね、日々の授業づくりに生かすことができたが、主体性とは何かを追求し、「子どもの側」から考えた授業づくりには改善の余地があり、育てたい児童の姿を明確にする必要がある。また、基礎基本は定着しているが、知識を活用する力や表現する力については課題が見られた。 ○日々の情報交換や児童の共通理解の研修を定期的におこない、生徒指導に生かすことができた。 ○校務分掌を中堅教員が中心に担い、ミドルリーダーの育成を進めてきた。若手教員が増加する中、一層の指導的役割が求められている。 ○学校運営協議会、学校だより、授業参観などで情報発信や交流をおこなった。	運営方針	落ち着いた環境の中で豊かな学びができ、地域との連携を進め、保護者や地域に信頼される学校を目指す。	B		
本年度の重点課題	(1) 落ち着いた環境の中で「生きる力」を育成することを基調にした学習活動を展開する。				
	(2) 各教育活動を「子どもの側」からの見直しを通し、すべての子どもが主体的に活動できる場や機会の設定の工夫を行い、存在感や充実感をもって学習・生活できるようにする。				
	(3) 一人一人の児童理解をすすめて、豊かに学ぶ児童の育成に努めるとともに、家庭や地域社会との連携のあり方にも工夫改善を加える。				
	(4) 教職員の創意や良さを生かし合いながら、校内の各種運営組織の活性化を図るとともに、研究・研修に取り組む。				
	(5) オープンスクールや学校新聞の発行によって地域・保護者への情報発信につとめ、外部評価も充実させ、学校改善に努める。				
評価の観点		評価	成果と課題(評価の分析)	次年度への課題と改善策等	学校関係者評価
教育目標 経営方針	① 学習指導要領や「学校教育の指導方針」等を踏まえた教育目標や経営方針を設定している。	A	A 「香芝市学校教育基本方針」をもとに、学校目標、目指す学校の姿を設定し、教育課程やランドデザインに示している。 「真美ヶ丘東小学校が目指す学校の姿」として、ランドデザインの中に示している。 前年度の総括会議、学校評価、学力テストの分析、日々の授業観察などから出てきた課題を踏まえ、重点目標を設定した。 「学校目標」「具体目標」「子ども・教師・地域・学校」の具体像をランドデザインに示した。 年度初めの職員会議や各部会等で経営方針や重点目標を共有したが、日々の教育活動に生かすことができたところと生かされていないところがあった。 児童・保護者への学校だより配布とHPへのアップに加え、地域での掲示や、学校運営協議会会員への配布をおこなった。	香芝市教育委員会の指導方針、及び学校のランドデザインの周知徹底を図るために、色々な場面での提示を行うとともに、各校務分掌や職員各自の目標設定が、その内容に沿ったものであることが必要である。来年度は年度始まるの時期に各分掌で重点的に取り組む項目を明確にし、目標設定をする。その目標を、職場全体で共有し、同じ方向に足並みを揃えて進んでいけるようにする。また、学校運営協議会の中でも重点的に取組たい項目を考え、地域とともに進められるようにしている。校務分掌、教育課程の中で、「知」「徳」「体」の取組を重点化した教育活動を位置づけ、今年度の取組をさらに強化していく。	AとBの差の判断基準を教えてください。Bのところを注視して、課題を明確にしていってほしい。足りないところを補充していきながら、ランドデザイン等に示している重点目標の取組を進めていってほしい。
	② 目指す学校像・児童像・教師像を具体的な姿で示している。	A			
	③ 学校の特色や前年度の課題を踏まえた重点目標等を設定している。	A			
	④ 学校運営や教育活動を構造化・体系化してランドデザイン等に示している。	A			
	⑤ 経営方針や重点目標等を教職員が共有している。	B			
	⑥ 重点目標等を学校だよりやホームページ等で児童生徒保護者・地域住民等に発信している。	B			
重点目標	① 集団の中で学ぶことの意義を考え、一人一人が豊かに学べる環境づくりをする。	A	B 秩序ある学習環境の構築を目指すと同時に、なかまを大切に、共に学び合う集団作りをすすめてきた。 「ほめる」ことの大切さを職員全員が共有し、その指導を心がけたが、全国学力学習調査の結果から「自分を認めてもらっている」と感じている児童が少ないことが分かった。 保護者と連絡・連携を密にするとともに、学校運営協議会やゆずりはコミュニティーの活動を活性化し、交流の場を増やした。	本校の重点目標については、職員会議等の全体の場や各学年部会で確認することができている。若手教員が増えてくる中、これらの目標の着実な履行を目指す上でベテラン教員やミドルリーダーが今後一層、指導的役割を担いながら、学年会や各部会を行わなければならないと考える。また、「ほめる」ために一人ひとりの良さを認めていくことも大切にしていこう。	参観や登下校の姿を見ると、あいさつできる児童が多く、整然として歩き、落ち着いて生活しているように感じる。ただ、元気が少し不足し、おとなしすぎる感じもした。一人一人をほめること、認めることは大切であるので、これからも引き続き取り組んでいってほしい。その取組が、自己肯定感を高めていくことにつながると思う。やんちゃな子どもでも本を読むのが好きとか、優しいところがあるとか良いところがある。叱った後にほめることが有効であると思う。3つ怒ることを伝え、最後に1つほめることを言うという方法もあると思う。
	② 一人一人の子どもの良さを可能性を見だし、ほめることを大切に指導をする。	B			
	③ 保護者や地域との信頼関係を得るべく努力する。	B			
組織運営 校務分掌	① 学校の課題や今日的な教育課題に対応するための組織をつくり、具体的に取り組んでいる。	B	B 昨年度の反省を生かし、学力向上に関わるものや、図書館教育に関わるものなどの校務分掌の再編をおこなった。さらなる充実を図るために組織改編を進めていく。 職員会議等に検討の場を振り分け、終礼の時間も活用しながら、職員の時間的な負担軽減をおこなった。文書のペーパーレス化を実現したことも負担軽減につながっている。	ミドルリーダーの育成を念頭に置きながら、ベテラン教職員の経験や能力を生かし、組織の構成、運営を行っていく。また、本校の特色を十分に生かすことができるような校務分掌の再編成を進めていく。	それぞれ先生方の得意や持ち味を生かしながら、子どもたちの学びが充実するようにしてほしい。
	② 企画会議や終礼、学年会議、分掌会議を定期的に行き、組織的な運営を進めている。	A			
学校評価	① 学校評価委員会等を設置し開催している。	A	B 12月末に各分掌の主任、教務、教頭、校長が集まり、学校評価委員会を開催した。主任の立場から建設的な意見が多く提案された。 職員評価・外部評価・児童アンケートを行い、組織的に推進している。 計画的に学校評価を進めたが、推進計画作成という面では不十分である。 重点目標を踏まえた評価項目を設定し、校務分掌の各部会などにおいて、改善につなげている。 外部・内部・児童それぞれの評価項目を連動させてアンケートをおこない、比較しながら実態把握、課題発見することができた。 学校運営協議会の中で評価結果を考察していただき、次年度の改善へとつなげている。 内部評価の集計結果を学校運営協議会において検討している。 校務分掌の主任を交えて結果を考察し、総括会議において、学校評価を生かした次年度に向けた提案がおこなわれた。 学校運営協議会の中で周知を図るとともに、学校HPにアップしている。 学校運営協議会の中で周知を図るとともに、学校HPにアップしたり学校だよりで知らせたりしている。	今年度は初めて学校評価委員会を開催した。各主任の立場から結果を分析し、建設的な多様な意見が出てきたことで、それぞれの分掌で次年度に向けた活発な話し合いにつながった。児童、教職員、保護者に加えて、学校運営協議会の方々による授業参観や学校行事への参加をすすめて、より幅広い外部評価を行った。また、アンケート形式による評価だけでなく、意見交換をおこなう場を設け、様々な角度からの感想や意見を取り入れようとした。今後は意見収集の方法も考えながら、その内容をいかにフィードバックするかを考え、学校改善を円滑に進めていきたい。	児童、教職員、保護者、地域の評価をもとに学校改善に取り組んでいってほしい。すべての項目がA,Bだが、C,Dがついていると改善案も伝えやすいと思う。C,Dがつくような項目はないということなので、組織的に取り組むことができていっているのだと思う。先生方は資料を作ったり、指導をしたり、色々なことをしたりしていただいているので、評価は高いのではないかなと思う。
	② 学校全体で組織的に学校評価を推進している。	B			
	③ 学校評価の推進計画を作成し、計画的に推進している。	B			
	④ 本年度の重点目標等の達成に向けた具体的な目標や取組を評価項目として設定している。	A			
	⑤ 児童生徒や保護者等を対象としたアンケート(授業評価を含む)を自己評価に適切に活用している。	A			
	⑥ 保護者を含めた学校関係者評価委員会を設置し開催している。	B			
	⑦ 自己評価の結果を踏まえた学校関係者評価を実施している。	B			
	⑧ 学校評価をツールとして活用し、学校改善が進んでいる。	B			
	⑨ 保護者や地域住民等に自己評価の結果を公表している。	A			
	⑩ 保護者や地域住民等に学校関係者評価の結果を公表している。	A			
教育課程	① 学校や地域の実態及び児童の特性を踏まえ、主体的・創造的に活動できるような教育課程を編成している。	B	B ゲストティーチャーの招聘や施設見学等、体験活動を通じて豊かに学ぶ工夫をしたが、児童が主体的に活動できるような授業づくりをさらに進めていく必要がある。 各学年で時間割の工夫や行事の精選をしたり、教務主任が定期的に授業時数を集計したりして、授業時間の確保に努めた。	今後も、学校・児童・地域の実態を踏まえた特色ある教育活動を展開していきたい。そのために、全学年を通して重点的に指導していく内容や、主体的に学ぶための授業づくりに関する研修を充実させていく。	体験的な学習などを通して、子どもが主体的に学んでいくことは大切である。今後も充実させてほしい。
	② 授業時数の点検を定期的に行い、年間授業時数の確保に努めている。	A			
地域連携	① 地域住民や保護者と連携・協働して、課題解決に向けて取り組んでいる。	B	B 学校運営協議会の中で本校の課題を明らかにし、重点的に取組たい内容について熟議できたが、さらなる連携・協働が必要と思われる。 学校だよりの発行・掲示によって、保護者・地域にその取組をその都度紹介している。	学校だよりを通じて学校の取組や児童の様子を、保護者や学校運営協議会のメンバーなど幅広く発信した。また、掲示板やホームページも活用し、一般地域住民の方々にも触れるように今後も進め、本校の課題改善に向けても取組を進めていきたい。	保護者の方も含めて、あいさつをする習慣を身につけていってほしい。学校とともに家庭でも頑張ってもらいたいところがある。
	② 保護者や地域住民等に対して、地域連携の取組を情報発信している。	A			
危機管理	① 公文書や個人情報の管理や保護を適切に行っている。	B	B 個人情報の管理・徹底を図り、管理職が点検・確認を行っている。各種鍵の保管と金庫の管理について徹底した。 緊急時の対応についてマニュアルに沿って避難訓練を行った。児童や教職員に知らせない訓練など、より実践的な訓練にも取り組んでいきたい。 職員研修において、生活管理表の共通理解を図るとともに、緊急時の指導体制や対応について具体的な事例をもとに訓練を行った。	あらゆる危機を想定し、危機管理マニュアルの周知と改善を今後も継続していく。児童の避難訓練や職員の研修についても、より具体的な状況設定のもとに行うことで、実用性を高めていきたい。職員の不審者訓練研修を来年度は行う予定である。	能登半島地震の報道等を目にして、学校は現実感をもって子どもへの指導を充実させてほしい。職員の不審者対応訓練や避難訓練などは、消防・警察の協力を得て実施してもらいたい。
	② 危機管理マニュアルを作成し、共通理解している。	B			
	③ 食物アレルギー等を有する児童生徒に対して、指導体制や緊急対応の体制を整えている。	A			

評価はA・B・C・Dの4段階

教育活動	評価の観点	評価	成果と課題(評価の分析)	次年度への課題と改善策等	学校関係者評価
学習指導	① 学習指導要領に基づき、教育目標等を踏まえた各教科等の年間指導計画を作成し、活用している。	A	各教科の年間指導計画を作成して、学年間で相談しながら進めている。図画工作科の年間指導計画をさらに充実させていく必要がある。 各学年で学力向上に関わる取組を話し合ったことをもとに、各教科において、基礎的・基本的な知識や技能の定着を目指した授業を行った。 対話的な学習や、問題解決的な課題を増やして、ICT機器も有効に活用しながら児童の主体性を高める授業づくりを進めることができた。 ゲストティーチャーの招聘や体験的な学習を取り入れて、主体的に取り組めるように工夫できた。 新しい指導要領の改定のポイントや評価の観点について、各教科ごとにまとめたものを参考に共通理解を図った。 学習内容、児童の特性等に応じて、各教員が評価し、指導内容を柔軟に検討しながら授業を進めている。	それぞれの教科において、基礎・基本を大切に授業や体験的な学習を取り入れた授業を展開しているが、習得した知識を活用する力を育むための学習活動や児童が主体的に学ぶ活動については、研究・改善の余地がある。また、主体的で対話的な深い学びを確立していく上でも、研修で学んだことを生かして、学年間での取組の交流や、自主的・自発的な公開授業などを進め、指導者の力量を高めていきたい。また、教職員がそれぞれの所属の研究会等で学んだ内容を校内で共有し、様々な知見を得られるような環境整備を進めていきたい。	塾に通う児童も多いとは思いますが、やはり基本は学校の授業で力を付けてほしい。様々な取組を通して、子どもたちが学ぶことが楽しいと思えるような授業を作っていたきたい。
	② 基礎的・基本的な知識や技能の習得と、それらの活用を図る具体的な取組を計画的に行っている。	A			
	③ 指導方法や学習形態の工夫をし、児童が集中して取り組む授業を行っている。	A			
	④ 体験的な学習や課題解決的な学習等、児童が主体的に取り組む学習を行っている。	A			
	⑤ 各教科等の評価規準を作成している。	A			
	⑥ 授業における児童の学習状況を適切に評価し、指導に生かしている。	A			
学習意欲	① 児童の学習の実態を分析し、全教職員で課題を明確にしている。	A	昨年度の全国学力・学習状況調査や県テスト(国・算)の調査の結果や課題を、職員全体で共有し、改善をすすめている。県教育研究所主催の指導力向上研修会(国・算・理)に参加し、内容を共有した。 一人一台のタブレットなどICTを積極的に活用し、学習内容の視覚化や積極的な意見交流、工夫した教材提示などを進めているが、高学年になるほど意欲維持が難しい。 家庭での学習習慣を構築するために、基礎基本を中心とした課題を計画的に準備したり、自主学習を進めたりした。	個々の教員が有する授業のアイデア、とりわけベテラン教員の持つ実践やICTを活用した実践、研究会等で得た内容を共有していく仕組みを強化し、すべての教員が授業の幅を広げること、児童の興味・関心を高めていきたい。特に単元の導入で学習の見通しがもてるようにしたり、終わりに学習を振り返ったりするような学習や国語科において問いを考える活動なども積極的に取り入れていきたい。	本人をよく見て声かけをしていってほしい。学校だけではできない、家庭にも協力してもらえるといいのではないか。学校と家庭が一体化するとA評価になると思う。
	② 学習意欲向上のために、教科等において具体的な取組を行っている。	A			
	③ 家庭での学習習慣の定着に向けた具体的な取組を行っている。	B			
生徒指導	① 児童の実態について共通理解し、教職員が連携して、組織的・継続的に指導する体制を整えている。	A	定期的、または状況に応じて臨時的に児童の実態を共通理解する場を設け、事象に対しては担任だけではなく、組織的に取り組むことができた。 教育相談部を組織の中に位置づけ、コーディネーター、担任、養護教諭と連携した。また、スクールカウンセラーによるカウンセリングをすすめる、多数の相談が寄せられた。担任または担当と保護者との連携・連絡を密にしていた。昨年度、定期的におこなっていたケース会議は必要とときに開いた。	今後もすべての教員で児童を育てるということを大切に、児童の実態を共通理解し指導に当たってほしい。また、必要に応じて関係機関やスクールカウンセラー、保護者との連携を図り、よりよい支援の在り方を模索していききたい。不登校児童に対して、関係機関へつなぐ働きかけや担任との関係づくりなど積極的に進める必要がある。	子どもの実態や課題について先生方が情報を共有して指導していることは大切にしたい。関係機関やスクールカウンセラー・保護者と連携することでより効果的な支援へと繋がられるだろう。
	② 指導や支援のできる教育相談体制を整えている。	A			
	③ 家庭や地域、関係機関等との連携・協力体制ができていく。	B			
規範意識	① 児童の実態を分析し、全教職員で課題を明確にしている。	B	今年度から「ろうかの右側を歩く」を重点目標として進めてきたが、十分には意識づけできずに、課題が残っている。 「あいさつ運動」等、学校と地域が一体となって取り組むことができた。児童委員会の活動として、週に一回のあいさつ運動に取り組むことができた。 いじめアンケートを実施するとともに、分析結果を共有し、組織的に対応することができた。 ゆずりはコミュニティの活動に「あいさつ運動」を位置づけ、定期的に保護者や地域住民、関係機関とともに取り組んだ。	子どもの実態は様々である。その中で職員全体が同じ意識をもって指導に当たることが重要であると考えている。さらに、児童自らが生活を見つめ直すことができるような場を工夫して生活していく必要がある。当然、保護者・地域との連携は欠かせないものである。そのため、連絡を密にし、すすめていく。	いじめに対する取組を引き続きおこなってほしい。取組をしていただいていると分かります、安心して学校に通わせることができると思う。そういう学校だと、幼稚園から安心して進学させることができる。
	② 課題解決に向けて、具体的な取組を行っている。	B			
	③ いじめに関して実態を把握するとともに、教職員が共通理解の下、いじめの防止・指導に取り組んでいる。	A			
	④ 規範意識を高めるために、保護者や地域住民、関係機関等と連携して取り組んでいる。	A			
道徳	① 道徳教育の全体計画を作成し、活用している。	A	道徳の全体計画、指導計画を人権教育との連携も含めて作成し、それをもとに計画的・組織的に進めることができた。 これまで研修・研究してきたことを生かし、各学年で話し合いながら進めているが、具体的な授業の進め方や多面的、多角的な視点をもたせることには改善の余地がある。	年間指導計画を改善したことで、人権教育との連携も図れるようになった。しかし、道徳の授業時間の確保や、多面的、多角的な考え方ができるような授業づくりについて、より一層の研修が必要である。	社会における人権意識の高まりもあり、道徳の時間はますます大切な時間だと思える。これからはしっかりと取り組んでいってほしい。
	② 道徳教育を推進するための体制を整え、具体的な取組を行っている。	B			
特別活動	① 特別活動の全体計画及び各活動・学校行事の年間指導計画を作成し、活用している。	B	年間計画を作成し、楽しく過ごしやすい学校生活を目指し取り組んでいるが、話し合いの時間を十分に確保することができていない。 地域の方との出会いや、子どもたちの自主的な活動を大切にしたい取組を進めた。	本校の実情を考慮しながら年間計画を作成し取組を進めた。来年度は、学級会の進め方等を研修し、話し合い活動が促進できるように取り組んでいきたい。	コロナ禍による制限もなくなり、子どもたちが伸び伸びと活動できるようになって良かった。今後さらに多くの活動が、以前のように実施されることを願う。
	② 自然体験や社会体験等の体験活動を計画・実施している。	A			
人権教育	① 児童や地域の実態を踏まえ、県の「人権教育推進プラン」に基づいて人権教育推進計画を作成している。	B	各学年の実態から重点課題を決め、一人一人を大切に取る取組を進めているが、児童の実態に合った指導内容の精選が必要である。 本校の人権教育推進プランに基づいて各学年で人権に関わる授業をおこなった。保護者向けの教育講演会ではLGBTQについてお話を聞かせていただいた。	人権教育推進計画に沿って重点課題を中心に、学年で話し合いながら進めた。人との出会いを大切にしたい取組を進められたが、指導内容の精選も必要である。9月におこなった人権の授業参観・懇談会では、各学年で保護者とともにそれぞれの人権テーマに基づいて話し合うことができた。	人権教育について授業参観・懇談会、また保護者向けの教育講演会を実施することで保護者への啓発に繋がった。一人一人を大切に取る取組がさらに充実するようにしてほしい。
	② 児童・保護者の人権意識を高める多様な取組を計画・実施している。	A			
特別支援教育	① 特別支援教育推進計画等を作成している。	A	個別の指導計画、すまいるノートを作成し、個に応じた支援・教育と、交流計画など「障がい児(者)理解の二面から推進している。 特別支援教育を人権同和教育の下に置き、教職員が夏期休業中に研修を行ったり、通常学級における交流活動の中で、児童が理解を深めたりした。	ユニバーサルデザインの研修をもち、考え方をいれた学級や授業づくりに全校で取り組んでいる。特別支援学級に在籍する児童や、在籍しないが支援が必要な児童に対して、共通理解する機会をもった。支援体制・指導内容が児童の発達の様子や保護者の願いに沿ったものになっているかを定期的に点検し、教育課程や支援の仕方に反映させたい。	ユニバーサルデザインの考え方を生かした取組を全校で実施していることは良いことだ。今後も、一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実を願う。
	② 特別支援教育を推進するための組織を整備し、具体的な取組を行っている。	A			
キャリア教育	① キャリア教育の全体計画を作成している。	B	各学年の実態に合わせて、キャリア教育を計画し、指導を進めた。キャリアパスポートの取組も、学年で検討し、実施したが、学校全体を見通したものに改善していく必要がある。 体験的な活動や仕事に関する学習を計画的に行った。	キャリア教育の全体計画に基づき、各学年で指導を行っているが、内容が改善の余地がある。より児童の実態に合致した計画立案をし、キャリアパスポートの取組ともリンクさせながら実践をしていく必要がある。	将来に対する夢や希望が持てるような指導を計画的に行ってほしい。体験的な活動等を通してキャリア教育のねらいに迫れるのではないかな。
	② 児童のキャリア発達につながる体験的な活動を計画・実施している。	B			
健康安全	① 学校保健・安全計画を作成している。	A	前年度の総括をもとに、計画を立て、4月に職員の間で共通理解を図った。 学年に応じた交通安全指導や性教育を、計画的に行なった。 薬物乱用防止教室も学校薬剤師を招いて、6年生対象に実施した。 学級での指導以外にも、身体測定の日を利用して、養護教諭が系統的に、学年に応じた内容を指導した。 毎学期に災害の種類に分けて、マニュアルを基にして避難訓練を実施した。 今年度は基本的にたてわり掃除で異学年での清掃活動を取り入れた。キッズサポーターの活動(児童のボランティア活動)として、運動場の美化作業を実施した。	生徒指導主任・養護教諭・保健主事を中心に、教職員全体で共通理解をはかりながら、引き続き、健康安全教育に取り組んでいきたい。外部人材も積極的に活用しながら、日々変化する社会状況に合わせた具体的な取組を進める必要がある。	起こることがあるかもしれないと考えて、その対処の方法を研修で身につけておいてほしい。年1回は職員の不審者訓練をしてほしい。 瓦口では表示が少ない。とびだしぼうやを個人の私有地に置くことをお願いしているが、物にあたっての責任の所在はどこにあるのか、どのように管理していくのか。これからの課題として検討してほしい。電信柱につける標識は市の方でしてくれている。今のところ瓦口に設置している。地域の方が色々考えてくれていることはありがたいことであると思う。
	② 薬物乱用や喫煙の防止、性教育、交通安全等に関する指導を行っている。	A			
	③ 健康相談、保健指導を適切に行っている。	A			
	④ 避難訓練や安全意識高揚のための取組を計画・実施している。	B			
	⑤ 校舎、校庭等の環境美化や清掃活動に力を入れている。	B			
食育	① 児童の食生活の実態を踏まえた食育推進のための計画を作成し、具体的な取組を行っている。	A	指導計画をもとに、各教科や給食指導、特別活動と連携して取組を進めた。 「元気もりもりカード」や、給食だより、給食試食会、動画などを通して、児童・保護者への食への関心を高めた。給食中は栄養教諭の巡回指導により、食への関心を高めることができた。	「元気もりもりカード」等を活用し、自分の食生活などを振り返る機会をもたせることができ、さらに児童の実態把握にも役立った。また、栄養教諭の給食時間の巡回指導や、掲示、食に関する授業、動画視聴などを通して、児童の食への関心を高めることができたので、継続して取組を続けていく。	食べることは子どもにとっていちばん大切なことなので、様々な食に関する取組を通して関心を高めていただけてほしい。引き続き元気な真美っ子を育てていただきたい。
	② 児童・保護者の食に関する意識を高める取組を行っている。	A			
読書活動	① 全校一斉の読書活動など、読書活動を推進する取組を行っている。	A	全校一斉の読書タイムでは、落ち着いて読書活動に取り組んでいた。読書貯金にも意欲的に取り組む児童も大勢いた。図書委員会の本の紹介などの取組も本に親しみきっかけになった。図書ボランティアの協力を得て、図書室の環境整備が充実した。 各教科での調べ学習等、時間を割り振って効率よく図書室を活用できた。	図書館ボランティアの方の活動も再開し、読書タイムや読書貯金、委員会の活動が、児童の読書意欲の向上につながっている。情報収集の技能の向上や、読書の幅を広げるための指導を大切にするとともに、図書室使用の頻度を高めていきたい。また、新聞も配置され、児童の興味関心に役立っている。	ゆずりはコミュニティの中でも読書活動の推進が中心的な話題になるなど、保護者・地域と一体となった活動とますます発展することを願っている。
	② 学校図書館が読書活動や教科指導等において有効に活用されている。	A			
体力向上	① 児童の体力の実態を分析し、全教職員で課題を明確にしている。	A	体力テストや体育の時間の児童の様子から、課題を見出し、職員間での共通理解を図ることができた。 児童の実態や本校の実情も考慮した上で指導計画を作成し、計画に沿って取り組んだが、みんなが楽しめる体育科の授業づくりに関してはまだ課題が残っている。 かけ足や縄跳びに全校で取り組む期間を設けたり、その成果を発揮する場を設定したりしたが、体力向上についての取組には課題が見られた。	体力テストの結果や日常の体育の授業をもとに児童の課題を把握している。全体的に運動が苦手な児童が多く、全国平均と比べても低い。課題解決に向けての学校全体の取組には改善の余地があり、学校全体で共通理解をもって、授業づくりや体力向上についての取組を進めていきたい。	今の子どもは自由に遊ぶ時間がない。昔はもっと自由に遊んでいたと思う。子どもたちが自由に遊べるように、コミュニティの力を借りながら手作りでできるような遊具を作り、遊べる環境を作れないだろうか。幼稚園や保育所と連携して遊ぶことも一つの方法ではないかな。
	② 体育科の授業で、課題解決に向けた具体的な指導計画を作成して取り組んでいる。	B			
	③ 体育科の授業以外で、課題解決に向けた具体的な取組を計画して取り組んでいる。	B			
研修・研究	① 研究主題及び研究内容・方法を明確に示して取り組んでいる。	B	研究主題「主体性を育む授業展開を目指して〜読むことを深める学習を通して〜」として、研究を進めたが、主体性とは何か、目指したい児童の姿という本質について深めきれなかった。 すべての学年で、教科と人権教育の研究授業や実践報告を実施した。互いに授業を見合う機会も設けた。全員が一人年間2回の自主公開授業を実施した。 研究主題につながる国語の研修や、MYタイム(日々の実践の報告)を実施した。次年度はさらなる研修の充実を図りたい。	「主体性を育む授業展開を目指して」をテーマに4年間研究を進め、今年度からは国語科に焦点を絞って取り組んだ。児童が主体的に学ぶ姿を目指して、授業づくりを工夫した。しかし、主体性とは何か、目指したい児童の姿という本質については十分に共通理解をもてなかったため、次年度はより焦点化して国語科での取組を進めていきたい。	研究テーマを国語科に焦点化することでより具体的な研究・研修ができたのではないかな。子どもの学力向上のみならず、先生方の資質能力の向上を目指して、今後も励んでほしい。
	② 全ての学年で授業研究を計画・実施し、授業改善に全校体制で取り組んでいる。	A			
	③ 今日の教育課題や学校の課題に即した研修を計画・実施している。	B			

※評価はA・B・C・Dの4段階